

前ヶ谷遺跡発掘調査報告

—— 津市一身田大古曾所在 ——

2000. 1

三重県埋蔵文化財センター

序

津市中央部の沖積地は多くの遺跡に恵まれており、古くから文化が栄えているところでもあります。今回調査を行った前ヶ谷遺跡の周辺にも、弥生時代の大集落跡である長遺跡や古墳時代の大溝が確認された六大A遺跡など、この時代を考える上で重要な遺跡が多く存在しております。

こうした埋蔵文化財は、過去の生活を生き生きと伝えるだけではなく、我々の未来にも様々な助言を与えてくれる貴重な文化遺産です。文化財を保護していくことは現在を生きる我々の責務ではありますが、その一方で、生活を豊かなものとするために各種の公共事業も必要となってまいります。この度は、そのような公共事業に伴って現状を保存することが極めて困難であると考えられたため、やむを得ず発掘調査を実施して記録での保存を図ったところでもあります。今回の発掘調査の成果がより多くの方面で活用されることを切望いたします。

なお、文化財保護法の精神を尊重され、協議から発掘調査に至るまで多大のご理解とご協力をいただいた三重県県土整備部の各関係機関の方々をはじめ、地元の方々には、ここに心からのお礼を申し上げます。

2000年1月

三重県埋蔵文化財センター

所長 大井 興 生

例 言

- 1 本書は三重県津市一身田大古曾に所在する前ヶ谷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は平成11年度主要地方道久居河芸線地方特定道路整備事業に伴い、緊急調査を実施したものである。
- 3 調査費用は県土整備部が全額負担した。
- 4 調査体制は以下の通りである。
調査主体：三重県教育委員会
調査担当：三重県埋蔵文化財センター 調査第一課
技師 新名 強、臨時技術補助員 浜辺一機
- 5 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査第一課及び資料普及グループが行った。また、本文の執筆・編集については、新名が担当した。
- 6 調査地は国土座標VI系に属する。挿図の方位は全て座標北で示している。なお、磁北方位は西偏 $6^{\circ}30'$ （平成2年）である。
- 7 当報告書での遺構は、掘立柱建物を除き通番としている。また、番号の前には以下の略記号を用いている。
SB…掘立柱建物 SD…溝 SK…土坑 pit…ピット、柱穴
- 8 本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
- 9 スキャニングによるデータ取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本文目次

I 前言	1
II 位置と歴史的環境	2
III 調査の成果	4

挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 遺跡周辺図	3
第3図 調査区位置図	4
第4図 遺構平面図・土層断面図	5
第5図 杭列平面図・断面図	6
第6図 S B 1 平面図・断面図	6

図版目次

図版1 調査区全景	7
図版2 杭列、調査風景	8

I 前 言

1. 調査の契機

前ヶ谷遺跡は、三重県津市一身田字大古曾に所在する周知の遺跡である。

主要地方道久居河芸線地方特定道路整備事業に伴い遺跡が影響を受けることが予想されたので、平成8年度に試掘調査を行い、中世の遺物やピットを検出した。これを受けて、県土木部（現県土整備部）との調整協議を行ったが、遺跡を保存するのは困難であるという結論に至り、やむを得ず本調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

調査は、当事業により改変を受ける平面400㎡について行う予定であったが、事業地が道路や歩道に隣接しており、崩落の危険性があった。安全対策と歩道の確保を行った結果、調査面積は130㎡となった。また、北側には薬局が営業しており、進入路確保のため事業地を東西に分割して調査を行った。

調査は、重機にて包含層まで掘削を行い、人力により遺構を検出した。調査期間は平成11年9月14日～10月18日である。

調査には、津市大古曾、上津部田に在住の方々に参加して頂いた。ここに記して感謝致します。

佐藤チヅ子	村田 信子	村田三恵子
岡 由紀子	岡 英一	西山 弘
桜木 勝	杉本 幸生	田中 章夫
瀧口 二男	佐脇 忠一	佐脇かず子
佐脇 喜一	中村キクエ	佐脇 昭
中村 仁	東山 茂子	(敬称略)

〔調査日誌抄〕

9月14日 北半部重機掘削開始。
9月20日 作業員開始。遺構検出。
9月28日 ピットや杭跡を確認。
9月29日 写真撮影。土層断面図・遺構平面図実測。
10月5日 南半部重機掘削。
10月6日 土層断面図実測。
10月12日 遺構検出、ピットなどを確認。
10月13日 写真撮影、遺構平面図実測。津建設部に引き渡し。

(2) 記録について

実測図については、遺構平面図・土層断面図とも1/20の縮尺で実測した。

写真は中判カメラ（ペンタックス67）および35mmカメラ（ニコン）を使用して撮影した。使用したフィルムは、ブローニー（フジネオパンSS/PROVIA 100）および、35mm（ネオパンSS/Sensia II）である。

(3) 文化財保護法に関する諸通知

文化財保護法（以下、法）等にかかる諸通知は、以下により文化庁長官等あてに行っている。

- ・法第57条の3第1項（文化庁長官あて）
平成11年8月6日付道整第252号（県知事通知）
- ・法第98条の2第1項（文化庁長官あて）
平成11年9月20日付教生第916号（県教育長通知）
- ・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（津警察署長あて）
平成11年11月8日付教生第4-29号（県教育長通知）

Ⅱ 位置と歴史的環境

前ヶ谷遺跡(1)は志登茂川中流右岸の丘陵裾部に所在し、標高は8m程度である。昭和11年に開墾にともなって須恵器高杯が6つ出土している。丘陵上には、前ヶ谷古墳(2)・石積古墳群(3)・犬頭山古墳(4)などの古墳があり、古墳時代の集落の存在が想定される。このほか丘陵上には弥生時代の大集落である長遺跡(5)がある⁽¹⁾。

前ヶ谷遺跡の北側一帯は、中勢バイパスの建設に伴って大古曾遺跡(6)・橋垣内遺跡(7)・六大B遺跡(8)・六大A遺跡(9)の調査が行われている。六大A遺跡では、大溝から多量の土器と伴に滑石製模造品や木製祀具など祭祀関連遺物が出土しているほか、韓式系土器や初期須恵器なども出土している⁽²⁾。古代から中世にかけては、六大B遺跡で条里推定方向に一致する掘立柱建物群が⁽³⁾、隣接する橋垣内遺跡で136棟に及ぶ掘立柱建物が検出されている⁽⁴⁾ほか、窪田大垣内遺跡(10)や安養院跡(11)でも相当数の掘立柱建物が確認されている。平城宮出土木簡に

(表)「伊世国奄伎郡」・(裏)「久菩田里私部小□□」とあることや、緑釉陶器や円面硯などが出土していることから、このあたりが奄芸郡の中心地であったことが窺える。

前ヶ谷遺跡はこれらの遺跡群から500mから1km程しか離れておらず、古代から中世にかけての集落が広がっていることが想定される。

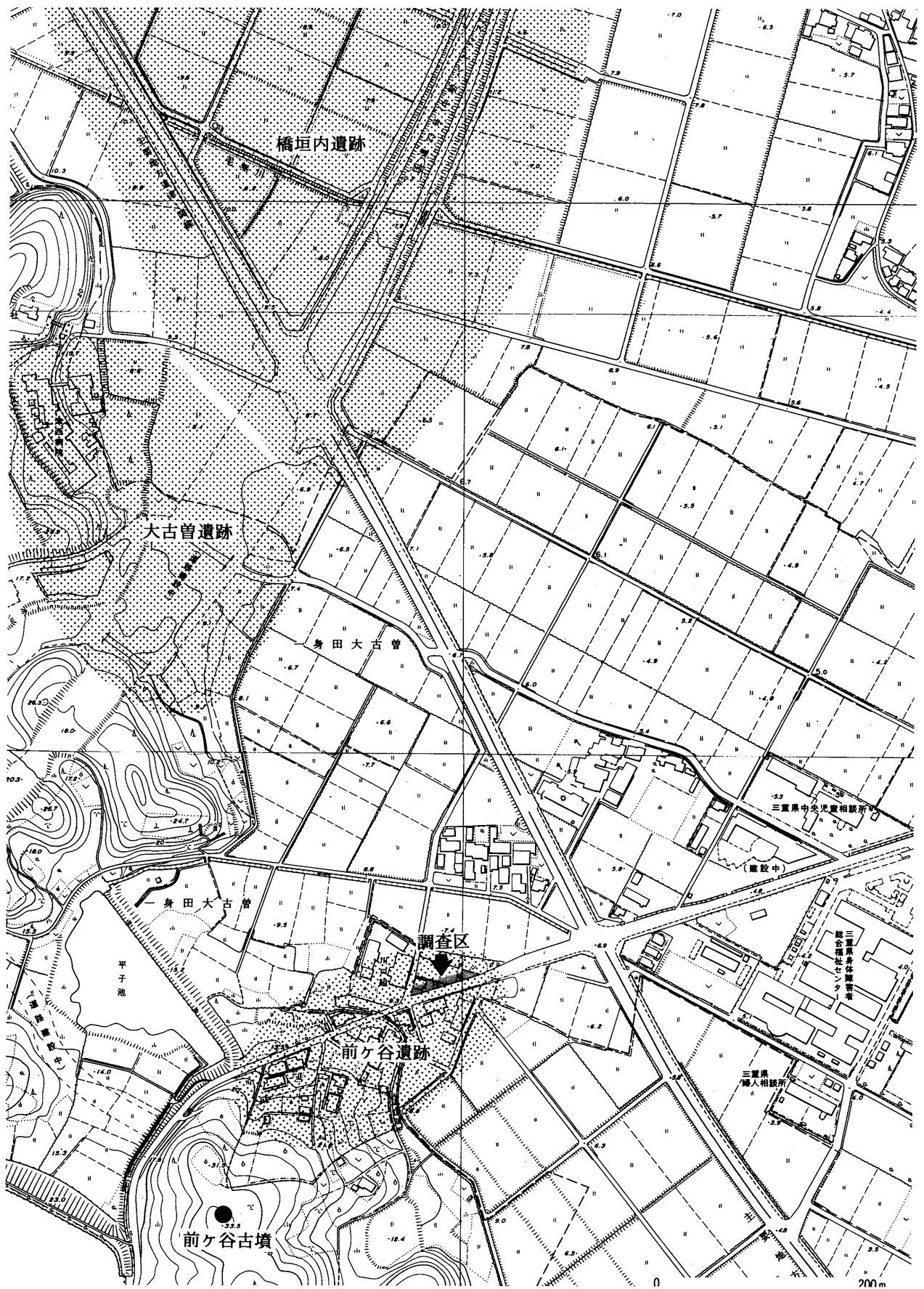
註

- (1) 池端清行「Ⅳ．長遺跡」『一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』三重23埋蔵文化財センター、1996
- (2) 中村光司・穂積裕昌ほか「六大A遺跡」『一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』三重県埋蔵文化財センター、1995
- (3) 本堂弘之「六大B遺跡(A地区)発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター、1999
- (4) 宮田勝功・穂積裕昌他「橋垣内遺跡発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター、1997



- | | | | |
|---------|----------|--------|------------|
| ①前ヶ谷遺跡 | ②前ヶ谷古墳 | ③石積古墳群 | ④犬頭山古墳 |
| ⑤長遺跡 | ⑥大古曾遺跡 | ⑦橋垣内遺跡 | ⑧六大B遺跡 |
| ⑨六大A遺跡 | ⑩窪田大垣内遺跡 | ⑪安養院跡 | ⑫川北城跡・川北遺跡 |
| ⑬上津部田城跡 | ⑭峯治城跡 | ⑮伏見砦跡 | |

第1図 前田遺跡位置図 (1 : 50,000)



第2図 遺跡周辺図

Ⅲ 調査の成果

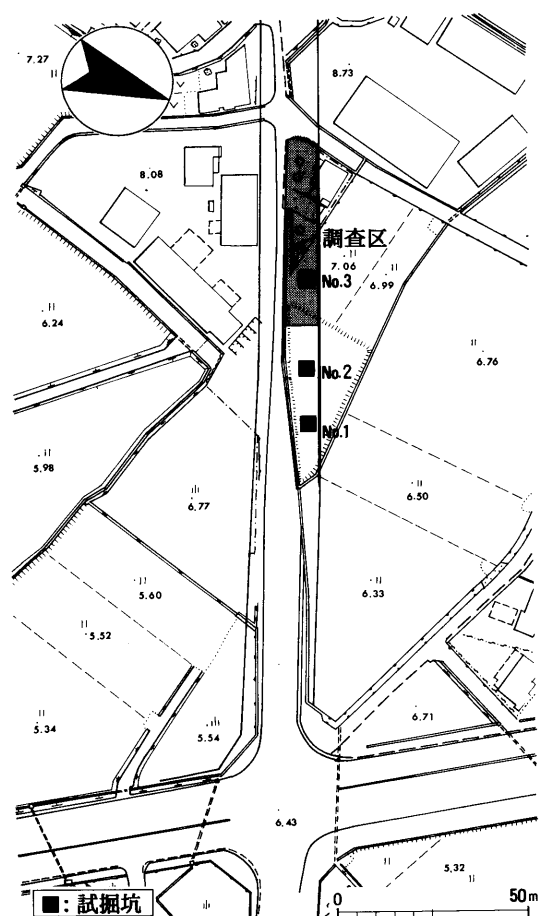
1. 基本層序

事業地は、平成9年度の試掘調査時には水田が営まれていたが、調査時には1mほどの盛り土が行われていた。

表土下1.2m程度で緑灰色や灰色を呈する旧水田面を確認した。水田耕土は0.1~0.2m程で、その下よりにぶい黄褐色砂質シルトの包含層が0.1~0.3mほど堆積している。包含層下の黄褐色粘質シルト面で遺構を検出した。

2. 遺構

遺構は主に調査区の中央部に分布している。調査区の西側は、試掘調査によって谷状地形が存在することが確認されており、調査区掘立柱建物・溝・土坑・ピット・杭列などを確認した。以下主な遺構について説明する。



第3図 調査区位置図 (1:2,000)

SB1 2間以上×1間以上の掘立柱建物で、柱間は1.8m×1.4mであった。棟方向はE-25°-Sである。柱穴は直径0.2~0.3m、深さ0.2mを計るこの掘立柱建物は調査区北側に展開する。

SD2 調査区東半を横切る溝で、幅約1m・深さ0.25mを計る。この溝の南端は側溝によって切られているが、調査区内で終結すると考えられる。

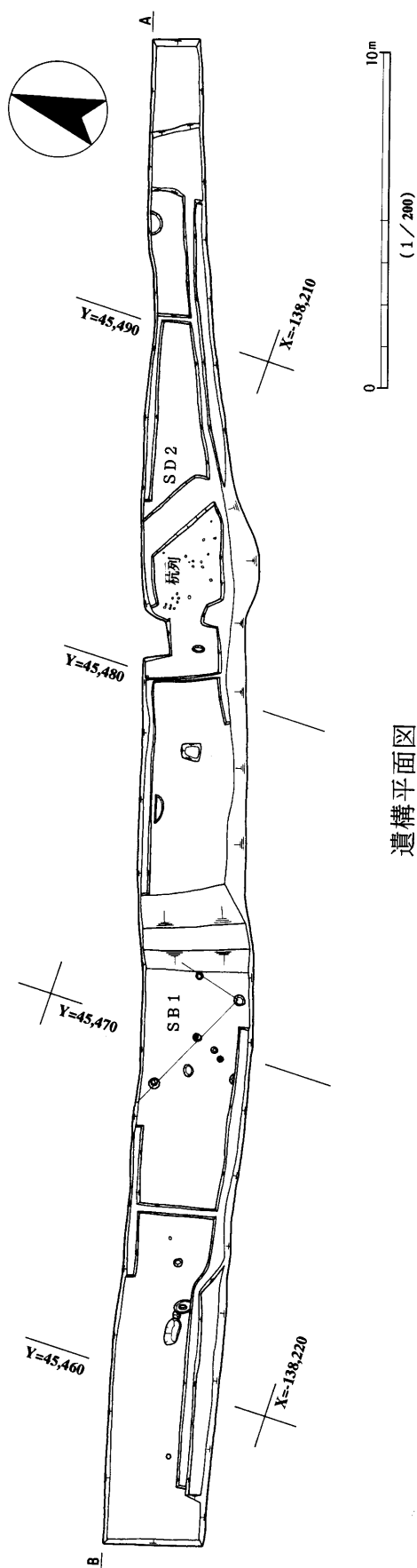
杭列 SD2の西側より直径0.05~0.1m・深さ0.1~0.2mの小ピットを24基確認した。これらは杭痕跡と考えられる。SD2の護岸施設のとも考えられるが、杭列の方向が溝方向よりも西に振っており、SD2に伴わない可能性も考えられる。

このほか土坑が5基確認されているが、いずれの遺構からも遺物は出土していない。

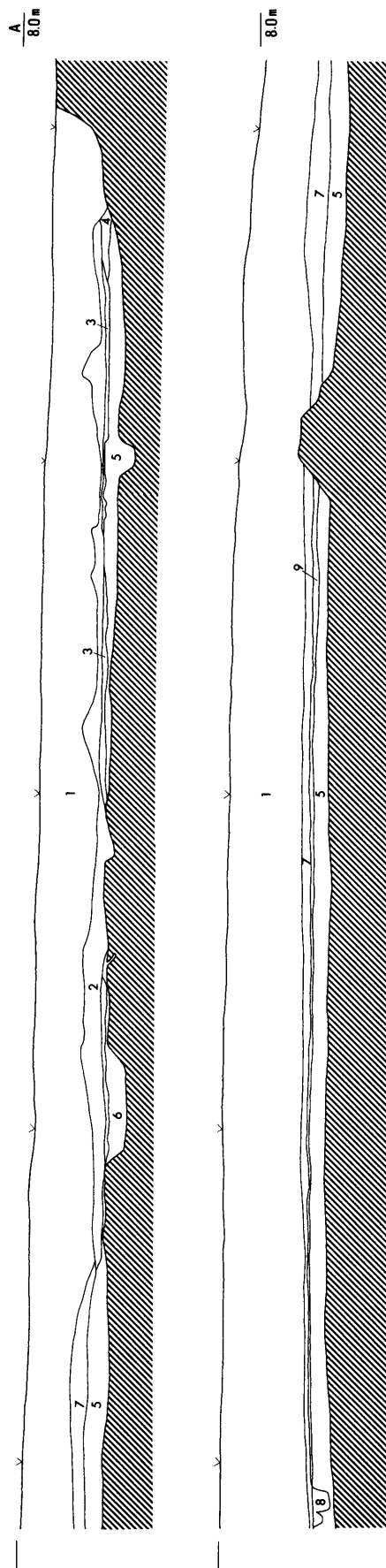
3. 結語

遺物は、包含層より須恵器と土師器が1点ずつ出土したのみである。須恵器は小片であるが、杯蓋で7世紀前半のものである。遺構からは遺物が出土しなかったため詳しい時期決定はできないが、掘立柱建物については、柱穴の形状や試掘調査の際に中世の土師器鍋片が出土したことから考えて、中世に属するものと思われる。

前ヶ谷遺跡の北500m程の所には大古曾遺跡や橋垣内遺跡があり、多くの掘立柱建物が確認されている。今回確認された掘立柱建物も、このあたり一帯に広がる集落の一端を形成するものであろう。



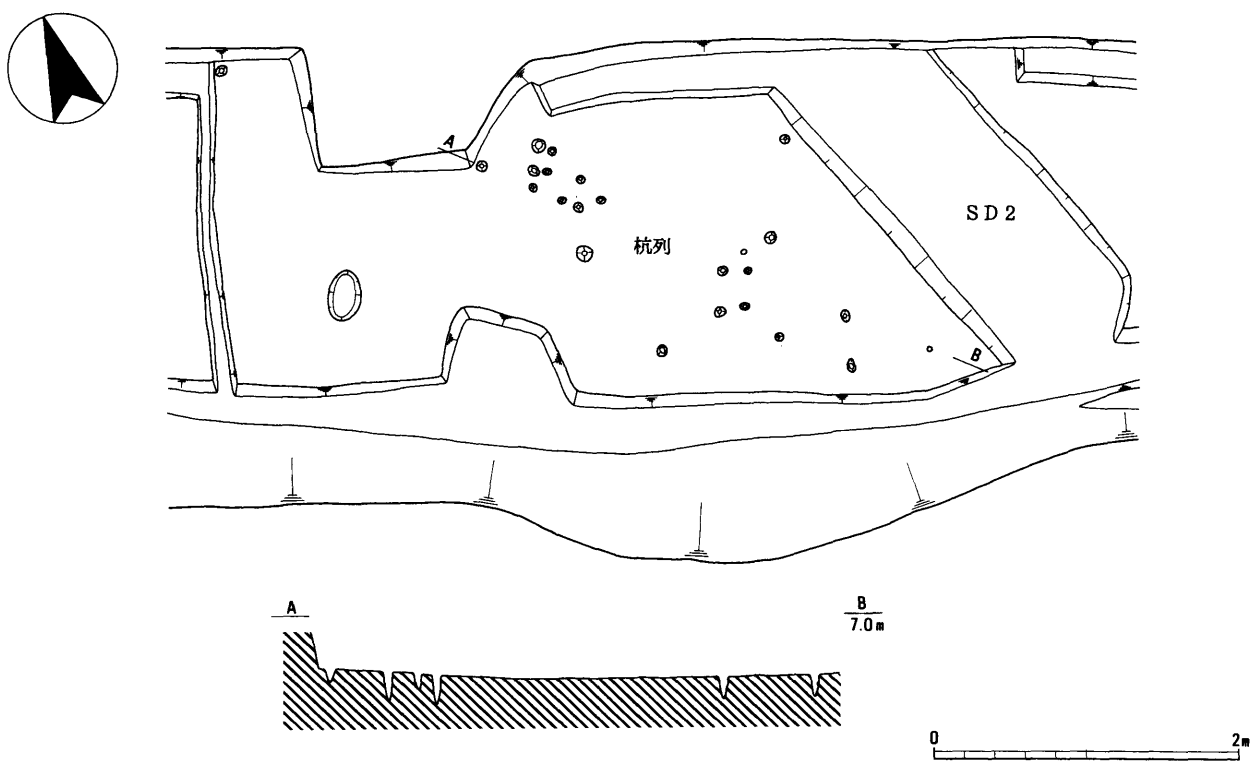
遺構平面図



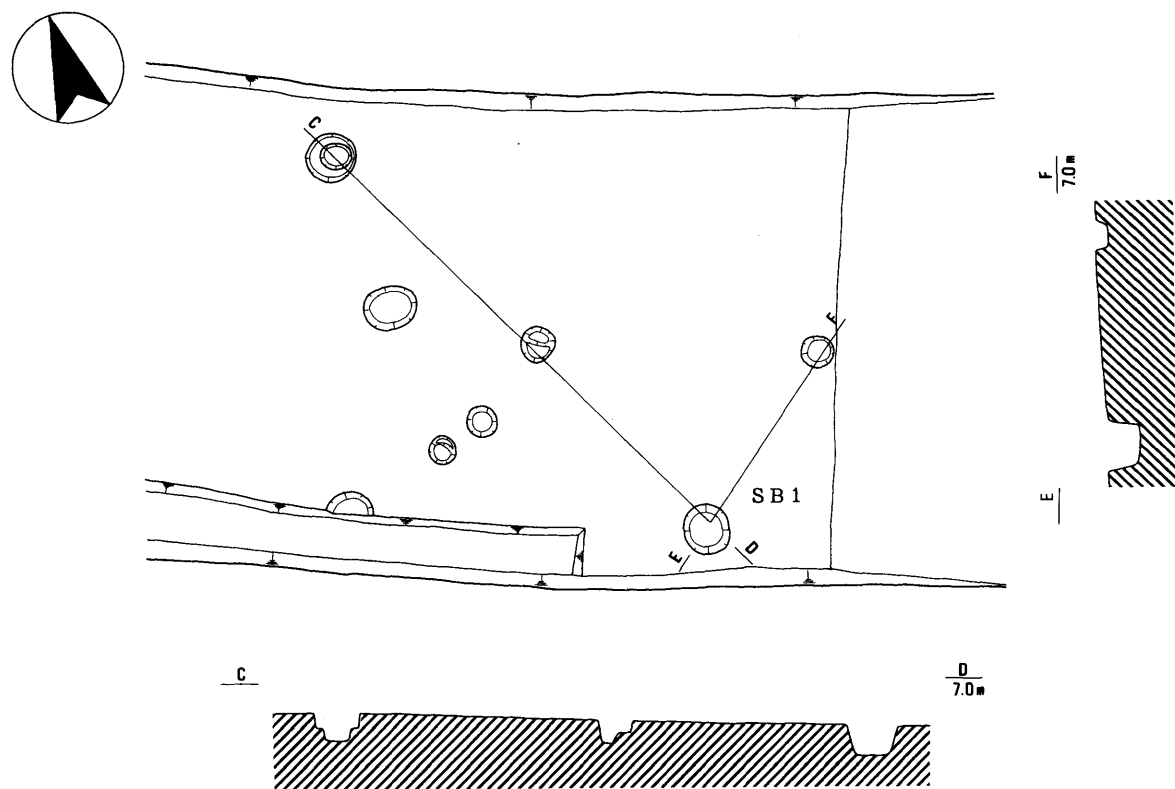
土層断面図

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1. 明黄褐色砂質土 (盛土) | 6. 黒褐色シルトに明黄褐色シルトブロック含む (SD2) |
| 2. 黄灰色砂質土 | 7. 黄灰色砂質シルト (旧水田) |
| 3. 緑灰色砂質シルト (旧水田) | 8. 黒褐色砂質シルト |
| 4. にぶい黄褐色砂質土 | 9. 灰白色砂質シルト (包含層) |
| 5. にぶい黄褐色シルト (包含層) | |

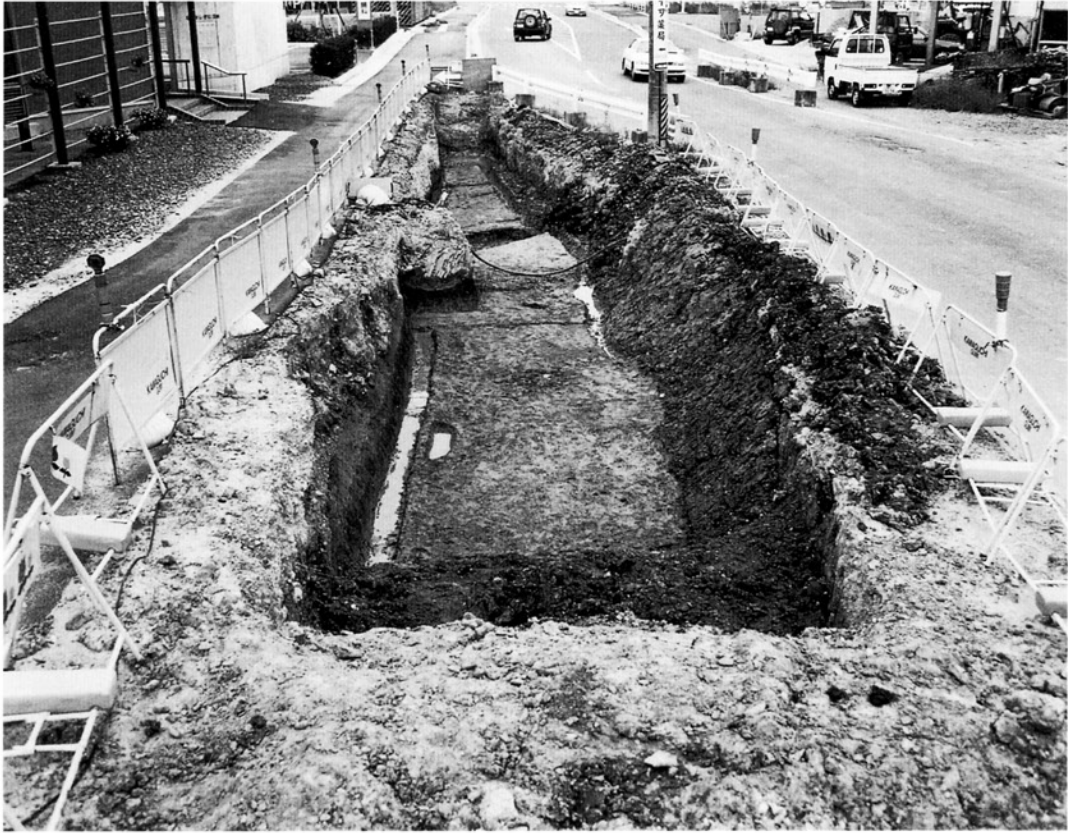
第4図 遺構平面図・土層断面図



第5图 杭列平面图·断面图 (1:80)



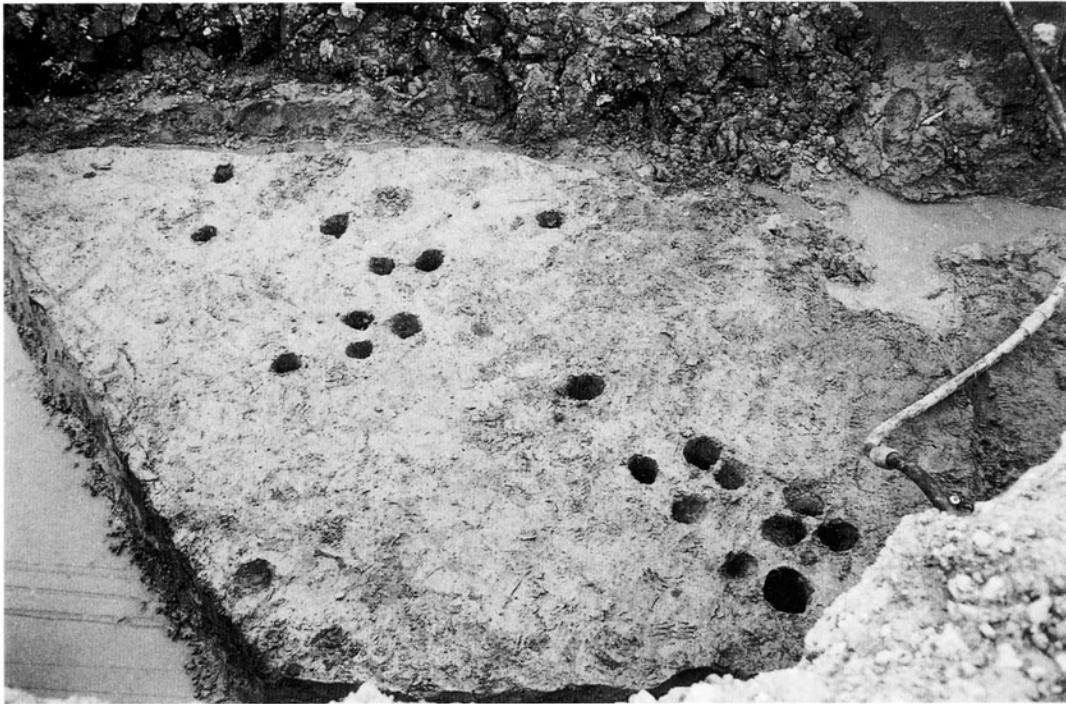
第6图 SB1平面图·断面图 (1:80)



調査区東半部全景（西から）



調査区西半部全景（東から）



杭列（北から）



作業風景

報告書抄録

ふりがな	まえがたに いせき はくつちようさほうこく						
書名	前ヶ谷遺跡発掘調査報告						
副書名							
巻次	199						
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号							
著者名							
編集機関	三重県埋蔵文化センター						
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel0596(52)1732						
発行年月日	2000年1月31日						
ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査積 面積	調査原因
	市町村	遺跡番号					
みえけんつし いっしんでん 三重県津市一身田 おごそあざ つほ あざ 大古曾字への坪・字 やまがみ 山神	24201	12	34度 45分 07秒	136度 29分 51秒	1999.9.14 ～ 1999.10.18	130m ²	平成11年度主要地方道 久居河芸線地方特定 整備事業
主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
古墳時代後期		須恵器杯蓋					
中世	堀立柱建物1棟 土坑・ピット						

平成 12(2000) 年 1 月に刊行されたものをもとに
平成 19(2007) 年 10 月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告 199

前ヶ谷遺跡発掘調査報告

2000年1月

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行
印刷 文化印刷有限公司